

あいち木造 ミーティング 2020

2020.12.15 (Tue)
14:00~17:30

会場：Zoomセミナー

参加費：会員・学生無料、一般1,000円
(指定口座までお振込)

○趣旨説明 14:00~14:10

東海林修 東海林建築設計事務所
米田直泰 名古屋大学4年

○話題提供者 14:10~16:20

(設計) 山田 憲明 氏 山田憲明構造設計事務所

「構造設計からみた木材、大径木の今後の使い方」

(流通) 村上 心 先生 相山女学園大学生生活科学部

「木材の勝機の為の流通とは」

(教育) 山崎 真理子 先生 名古屋大学生命農学研究科

「これからの木の教育とは」

○ディスカッション 16:20~17:20

上記登壇者 進行：太幡英亮 名古屋大学

○全体まとめ

清水 秀丸 相山女学園大学

参加申込メール：kiainokai@gmail.com

申込〆切：12月5日

木愛の会世話人(事務局長) 石田 富男
〒460-0008 名古屋市中区栄5-1-32
久屋ワイエスビル8F (株)都市研究所スペースア

指定振込先口座：三菱東京UFJ銀行上飯田支店
普通 4636840 木愛の会 代表世話人 田中英彦

テーマ

「りっぱに育った日本の杉は余っている？」

—どう活用するか？設計、流通、教育の先進事例から—

●企画の概要

木造都市実現に向けて様々な取組を行ってきた木愛の会では、一昨年、昨年と「木造建物の教育」をテーマに海外からも講師をお呼びして議論をしました。

第5回目となります今回は山の木の使い方と共に、大径木に焦点を合わせようと企画しました。

日本の国土の2/3を占める森林の40%（約1,000万ha）が人工林です。その人工林の殆どが杉をはじめとする針葉樹で、その内の35%が主伐期に入った、51~55年生です。今年度末にそれが50%になってしまうほどの状況です。国産材の供給量は増加傾向にあり、現在の自給率は約35%、国は2025年度までにそれを50%まで上げる目標を立てています。これには11齢級（51~55年生）以上の大きくて使いにくい「大径木」の利用が不可欠になります。伐採に労力と技術が必要。製材にも的確な機械が必要とし、使いづらいとされるこの大径木の構造用製材やCLTへの利活用は大きい材を小さくすることによる方法はあるものの、大きい材料が故の方法の具体策の検討が必要のようです。

今回は3人の諸先生において頂き、それぞれの分野での木材及び大径木の使い方や方法などを伺いたいと思います。

(設計) 山田憲明さんは日本を代表する木造の構造設計者です。色々な建築家とコラボをやりながら日本の山の姿をご覧になっています。川上から川下まで見据え、色々な建築家の木の使い方を検討していく中で見えてくる今後の山や木材の姿のお話をして頂きます。

(流通) 村上心先生は、東南アジアに日本の木造住宅を輸出するプログラムをスタートさせました。その住宅建設の為の木材も同時に輸出しようとしています。日本の木材の販路を海外に求める事は今後の木材の流通への影響はどのようなものかを東南アジアの住宅事情を含めてお話して頂こうと思います。

(教育) 山崎真理子先生は、各大学の建築系デザイン系の学生が集まる「MOKKO」というグループの指導をしています。「MOKKO」は都市の木造化を目指し活動をし、木材利用の推進活動を行っています。

学生に対して、現在の山の姿、今後の山の姿等についてどのようなお話をしているのかを伺いたいと思います。

主催：木造都市研究会 **木愛の会**